

第24回 全国ハイキング交流集会に参加して

ふわくハイキングサークル 田中康男

日時・場所：10月5日（土）～6日（日） 伊豆長岡「いずみ荘」

主管：静岡県勤労者山岳連盟

参加者：54名（分散会開催時）

◆ 記念講演

『今さら聞けない天気常識とネットで分る気象情報』 気象予報士：野尻英一氏
雷の話、身近に迫っている話から始まる。

避難の仕方として、岩場では窪みが良い…は、知らなかった。雷雲の中で、+や-の雲、両方ある。雷60分・10km以内。貴重な話でした。

昨今の特別警報に絡み、ネットで分る気象情報では、気象災害の事前情報をSNSで見する方法、天気予報の歴史から現代の大型コンピューターの計算式までチラッと見せ、はずれる理由も…。

私は冬山に行かないが、雪崩の起きる気象状況には、聞き入った。

トムラウシの話になったら、受講者に、あの時歩いていた人がいた。彼（リーダー）は山行を中止したかったが、メンバーに押し切られて行った…と。

夜、分散会の最中に、ある人の携帯が鳴り応対（翌6日も晴れや雨予報からの電話の様。）後、山行参加者から、LINEで色んな意見が沢山入って来て、迷ってる。

『最終的にはリーダーのあなたが決める事だ』と助言した…と。トムラウシの話につながった気がした。

◆ 三つの団体からの報告がありました。詳しくはレジメを！

- 1、前橋ハイキングクラブ活動報告
- 2、（東京）大田ハイキングクラブ レポート 世代交代をいかに果たすか
- 3、地方新聞のカルチャー教室で『登山入門講座』を開催して会員増に
山陽カルチャーマウンテンクラブ

◆ 分散会は三つに分かれ、5日夕食後と6日朝食後に行われました。色んな意見の中で、私が印象に残った発言・ワードを紹介します（順不同）。

LINEを積極的に使う。LINEは重宝でもありウルサイ。県連行事で事故があり船頭が多くて…「船、山に登る」。山の話（頼み事）は山で…。標高差±400mでトレーニング（登山と身体の科学）。連れて行ってもらうはダメ。岩場の訓練を「難場通過」と言い換え受講者を増やした。ランチ会をして話す。会員のランク制。初級ハイキング教室を開く。2～3年で役員交代。オンライン化。ハイキング役員なり手無し。年間60回の会山行をしている。リーダーの要請プログラムがある。女性会長が労山退会したがる。LINEによる登山参加者募集山行への参加。古い人の意見が強い。山行が物足りない。リーダーがいない。

◆ 城山（じょうやま）登山 6日10:40出発 伊豆には手軽な山が身近にある。観光バスから眺めたことのある山。頂上からの景色は好き。交流しました。